

2018年9月21日

## 2 子育て世代を取り込む幼児の健康教育推進について

○松本議員

次に、子育て世代を取り込む幼児の健康教育推進についてですが、前回一般質問において、全世代への健康づくりの必要性については確認しました。そこで、空白世代である子育て世代や幼児に対しては、より一層の施策のてこ入れが必要と考えます。特に幼稚園や保育園での幼児への健康教育は、その保護者も取り入れるよい機会ですが、現状についてお聞かせください。

（略）

○藤浦雅彦議長

次世代育成部長。

（小林次世代育成部長 登壇）

○小林次世代育成部長

保育所、幼稚園での健康教育についてのご質問にお答えいたします。保育所保育指針、幼稚園教育要領及び認定こども園教育・保育要領におきまして、みずから健康で安全な生活をつくり出すようになることが幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の一つとして位置付けられております。

例えば、公立の保育所や幼稚園では、体の発達過程を踏まえた運動遊びを行うとともに、生活リズムを整えることで健康な体づくりを行っております。また、手洗い、うがいなど清潔や感染予防に関すること、うがいや歯磨きなど虫歯予防に関すること、よくかんで食べる、残さないなど食育に関することなどについて、発達段階に応じた健康に係る指導を行っております。一方、保護者に対しましては、毎月保健だよりを発行し、その季節に合わせた子どもの健康に係る啓発を行っているところでございます。

民間施設におきましても、指針や要領に基づき、健康に係るさまざまな取り組みが行われております。

（略）

○松本議員

次に、幼児の健康教育推進についてですが、幼児への健康にかかわる指導の現状については理解しました。

私は、それらを健康教育として包括的にまとめ、かつ保護者を健康教育に誘い込むべきと考えます。これは、より多くの方に健康のまちづくりに参加できる場を増やすもの

で、本市の健康のまちづくり、先ほどの健康の先進モデル地域の達成に貢献すると思います。どうお考えかお聞かせください。

○藤浦雅彦議長  
保健福祉部理事。

○平井保健福祉部理事  
本市が取り組んでおります健康・医療のまちづくりと健康教育についてのご質問にお答えいたします。

本市では、健都における健康・医療のまちづくりを中心に、市内全域において、循環器病をはじめとする生活習慣病の予防や健康づくりに関する先進的なモデル地域を目指しております。こうした観点から、幼児や働き世代である保護者の方に対する健康教育に取り組むことは有意義であるものと考えております。

○藤浦雅彦議長  
松本議員。

○松本暁彦議員  
有意義と認識していると理解しました。例えば、今年11月に開園するKENTOひまわり園では、大阪人間科学大学と連携し、幼児への健康教育を健都のまちづくりに合わせて行うとお聞きしております。そのような幼児への健康教育を頑張ろうとしている施設等に対して、本市の健康関連のノウハウを教授するなどの可能な範囲で支援すべきと思いますが、どうお考えかお聞かせください。

○藤浦雅彦議長  
次世代育成部長。

○小林次世代育成部長  
子どものころから自分の体や健康に関心を持ち、自分の健康は自分で守るという意識が芽生え、健康にとって望ましい生活習慣を身につけることは、各個人にとっても生涯にわたる幸せにつながります。民間施設で積極的に健康教育に取り組むということであれば、要請に応じて健康分野に係る専門知識や情報を提供するなどの支援を行うことは可能であり、健康教育が充実していくことは、教育施策の観点、健康施策の観点から有意義であると考えます。必要に応じて保健福祉部と連携した支援を行ってまいりたいと考えております。

○藤浦雅彦議長  
松本議員。

○松本暁彦議員

ぜひ健康教育について連携していただければと思います。

この健康教育のノウハウができれば、本市全体の幼稚園、保育園等にできる範囲で普及することが適切であると思いますが、どうお考えかお聞かせください。

○藤浦雅彦議長

次世代育成部長。

○小林次世代育成部長

今後、先駆的に取り組む施設において健康教育のモデルのようなものができれば、公私立園長会やチーフ会、合同研修などの際にその取り組みを紹介してまいります。現状におきましても、各施設では、それぞれにカリキュラムを作成し、健康な心と体づくりに取り組んでおられることから、不足する部分や補強の必要な部分があれば、それを取り入れていただくことで本市の健康づくりの底上げにつながるものと考えます。

○藤浦雅彦議長

松本議員。

○松本暁彦議員

ぜひ市として健康のまちづくりの先進モデル地域としてふさわしい幼児への健康教育を推進するよう要望いたします。